

7. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連 (北陸)	◎	コンビニ（店舗管理）	・お盆期間に豪雨が重なるなど8月の環境の悪さは一時的なものであると考える。
	◎	一般レストラン（統括）	・10～12月は年末に向けて、外出や外食機会など客の動きが増えるとみている。
	○	商店街（代表者）	・良くなると思うが、本当に数字に表れる時期が来てほしい。
	○	高級レストラン（スタッフ）	・新型コロナウイルス感染症の状況次第だが、今の状況が景気の底に近いとみているため、3か月後には回復すると考える。県外からの秋の団体予約も、前年や前々年と比べるとかなり回復している。
	○	タクシー運転手	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減少し、秋の行楽シーズンにも入るため観光客が増加するのではないかとみている。
	○	タクシー運転手	・9月末頃には、新型コロナウイルス感染症の第7波も収束に向かうと考える。
	○	通信会社（営業担当）	・新商品発売の影響で今より販売数は増加するとみているが、オンラインで購入する客も増えており、店頭での販売は接客努力が必要である。
	□	商店街（代表者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数は高止まりし、高齢の感染者の死亡が連日報告されている。客が安心して出歩けるようになるには、まだ時間が掛かりそうである。
	□	一般小売店〔精肉〕（店長）	・猛暑などの天候不順により、他地域からの来客が減少している。9月は台風の時期でもあり、やや悪い状態がこのまま継続すると考える。
	□	一般小売店〔事務用品〕（店長）	・来店して購入するよりも、インターネット通販への志向が強くなると考える。
	□	一般小売店〔鮮魚〕（役員）	・売上は回復傾向だが、原料や資材の価格高騰が影響し利益を確保するのが難しくなっている。
	□	一般小売店〔書籍〕（従業員）	・新型コロナウイルス感染症の大規模な対策がない限り、現状が大きく変わることはないと考え。
	□	百貨店（売場主任）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が高止まりしており、外出を自粛する傾向は変わらないため来客数の大幅な増加は見込めないが、富裕層の旺盛な購買意欲に支えられていくという流れは変わらない。
	□	百貨店（販売担当）	・夏休みが終了し新型コロナウイルスの感染が一旦落ち着いても、旅行などの需要が一気に盛り上がる雰囲気はない。購買行動が慎重になっている点や、行政の支援策の有無で売上が変化していることが要因とみている。洋服を始めとして旅をテーマにした企画はするが、物価高もありセール品などの価格提案商品や、実需品の動きが中心である。しかし、旅行に行けないストレスから、目新しい商材やおいしい食べ物には客の反応があるため、このポイントを訴求すれば改善する可能性があると考え。
	□	スーパー（統括）	・原材料価格の高騰による商品値上げや、電気料金を中心としたエネルギー価格の高騰が今後も継続するとみられ、今の状態と変わらないと考える。
	□	衣料品専門店（経営者）	・新型コロナウイルス感染症第7波の収束は見通しが立たないが、新型コロナウイルス感染症と経済の両立を目指さなければならないと考える。
	□	衣料品専門店（経営者）	・世の中が非常に不安定であるため警戒心が強まっており、良くなる要因が見当たらない。
	□	家電量販店（店長）	・物価上昇の影響が出てきており、客のニーズに沿った商品よりも希望の予算での商品購入が多く、平均単価が下がっている。
□	家電量販店（本部）	・行動制限がないため期待しているが、新型コロナウイルスの新規感染者数の減少スピードが遅く、景気は変わらないとみている。	
□	乗用車販売店（経営者）	・良くなるのは外的要因が大きいため、景気が回復するためにはもう少しばかり時間が掛かると考える。	
□	自動車備品販売店（役員）	・自動車業界は新車の販売台数に大きく影響されるため、新車納入までのスピードが上がらなければ、今の状況は変わらないと考える。	

□	その他小売 [ショッピングセンター] (統括)	・新型コロナウイルスの新規感染者数には波があるが、人々の行動抑制の波はなくなってきている。そのため日常生活における需要の動きは顕著であるが、一方で外出や旅行、晴れの場など非日常における需要の回復が弱い。この傾向は今後も続くともっている。
□	一般レストラン (店長)	・コロナ禍が長期化するなかで人々が動き出したくなっている雰囲気はあるが、新型コロナウイルスの新規感染者数が高止まりしており、人の動きが良くなる気配が見えない状態である。
□	スナック (経営者)	・新型コロナウイルス感染症次第で、先々の見通しが立たない状態である。状況は8月とそれほど変わらないとみている。
□	観光型旅館 (経営者)	・コロナ禍により予約が間際になって入ってくるため予測は難しいが、ウィズコロナの生活に人々が慣れてきており、客は動くと考ええる。
□	観光型旅館 (スタッフ)	・新型コロナウイルス感染症第7波による予約取消しは前回の感染拡大時と比べて少ないが、新規予約の勢いが止まっている。都道府県ごとの県民割が9月末まで延長されたが、全国旅行支援が実施されないと本格的な回復は難しいと考える。
□	都市型ホテル (スタッフ)	・新型コロナウイルス感染症第7波の収束の見通しが立たない。
□	旅行代理店 (従業員)	・2～3か月後に新型コロナウイルスの感染状況が改善しても、1度キャンセルになった旅行は戻らないため、売上を積み増すことは非常に困難である。
□	通信会社 (営業担当)	・夏のボーナス商戦が終わり、新機種発売の情報は少しずつ入っているが客からの問合せは少なく、今後大きく変化する要因が見当たらない状況である。
□	通信会社 (役員)	・契約者数に特段影響を与えるイベントがなく、現在と同様の獲得契約者数の傾向で推移すると考える。
□	通信会社 (役員)	・物価上昇の傾向に変化の兆しはない。楽観的な見込みではあるが、今の状況がしばらく継続すると考える。
□	住宅販売会社 (従業員)	・築15～25年ほどの住宅に関するリフォーム需要は底堅いものがある。物価の上昇や世界情勢が変化しない限り、今の状況は変わらないと考える。
□	住宅販売会社 (従業員)	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減少しないため、景気回復は難しいと考える。
▲	百貨店 (販売促進担当)	・冠婚葬祭や旅行、企業の行事などでアパレルや記念品の需要があると考えられるが、売上は大きく伸びないとみており、新型コロナウイルス感染症発生前の実績を超えるのは難しい。また、生活必需品の値上げや長引くマスク生活により化粧品などの需要が大きく様変わりしており、新型コロナウイルス感染症発生前の2019年実績までには回復しないと見込んでいる。
▲	スーパー (店長)	・今後も一般食料品の値上げがあり、生活のなかで節約志向が一層強まると見込んでいる。
▲	スーパー (仕入担当)	・10月に控えている大型値上げの影響で買上点数が減少するとみている。
▲	衣料品専門店 (経営者)	・新型コロナウイルスの感染状況の推移と、物価の上昇という不確実な要素を払拭することができない状態である。
▲	家電量販店 (店長)	・値上げ商品が多くなり、買い渋りの様子が見られる。
▲	乗用車販売店 (従業員)	・新車納期の長期化等、何も改善されていない。
▲	乗用車販売店 (役員)	・物価上昇やエネルギー不足、新型コロナウイルスの新規感染者数の高止まりなどに対する政府の対策には全く進展がなく、無為無策を痛感している。
▲	通信会社 (職員)	・物価上昇などによる先行きの不安定さから、やや悪くなる。
▲	テーマパーク (役員)	・この先3か月間の予約をみると、直近の新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、予約状況が悪くなっている。
▲	パチンコ店 (経理)	・9月以降の物価上昇により、消費が減少すると考える。
▲	その他レジャー施設 [スポーツクラブ] (総支配人)	・新型コロナウイルス感染症で休業するスタッフの補充手配が限界にきており、これ以上広がれば仕事の確保が困難になる。また、電気や油などの高熱費の高騰による経費の増加が経営に影響を与えており、更に10月には最低賃金の改定で人件費も上昇することから、厳しい経営が続くと考える。

	▲	美容室（経営者）	・秋から生活必需品の値上げが更に増えるとの報道もあり、消費者は節約志向に向かっていると考える。
	▲	住宅販売会社（従業員）	・商品の価格上昇が止まらない状況で、買い控えを検討する客が増えるとみている。価格はまだ上昇するから早く決めたいという人より、様子見して時間を掛けて検討する人の割合が増加すると考える。
	▲	住宅販売会社（営業）	・住宅業界で原材料価格高騰の影響が本格化するのはいずれかと考える。それに対する税制や取得者への支援制度などの政府の対策が全くみえないため、景気の落ち込みを懸念しており、先行きについては不安しかない。
	×	商店街（代表者）	・例年新型コロナウイルスの新規感染者数が収まる10～11月に、どれだけ売上が回復できるかが課題になる。年末から先は、現在の基準が変わらない限り新型コロナウイルスの新規感染者数が増加すると見込んでいる。買い控えは当面続くと考える。
	×	スーパー（店舗管理）	・競合店の新規出店が確実である。
	×	コンビニ（店長）	・仕入原価からくる販売価格の上昇による売上増加は、景気が良いというより様々な負担が増えているだけだと考える。実際に当社社員の給与は減少しており、金の動きはあるが景気は悪くなるとみている。
	×	住関連専門店（役員）	・今後の新型コロナウイルス感染症に対する国の施策の内容にもよるが、予定されている食品の値上げ実施により耐久消費財や、嗜好品への支出は減少すると考える。
	×	その他専門店〔酒〕（経営者）	・消費者の所得が増加しないのに、光熱費や食品など生活するために不可欠なものが全て値上がりしている。酒類も10月に値上げが決まっており、今よりも更に売れなくなる最悪のシナリオの始まりだと考える。
企業 動向 関連 (北陸)	◎	—	—
	○	一般機械器具製造業（経理担当）	・オートバイメーカーでは、4月から6月の半導体不足や中国でのロックダウン等の影響による生産減少をばん回する動きがあり、受注の増加が期待できる。産業用も国内の設備投資の回復により、受注が増加している状態である。
	○	精密機械器具製造業（財務担当）	・大手企業を中心に底堅い受注があるため、やや良くなるとみている。
	○	税理士（所長）	・今まで落ち込んでいた観光業やサービス業、飲食業関係も一時期と比べると少しずつ盛り上がりが出てきている。この先の課題に給与の上昇があるが、ウィズコロナとなり、今後は新型コロナウイルスの新規感染者数が減少するとみている人も多いため、旅行業や観光業、飲食業関係は期待できると考える。景気は全般的に良くなる方向への手応えがある。
	□	食料品製造業（経営企画）	・様々なコストアップを受け、今年の春に続きこの秋も製品価格の値上げを実施する予定だが、それによって販売量は若干減少するとみている。
	□	プラスチック製品製造業（企画担当）	・新型コロナウイルスの感染再拡大に加え、ウクライナ情勢の長期化に伴う供給制限や製品の値上げ、原材料費の高止まり等の影響で、当面個人消費は本格的に回復しないとみている。
	□	金属製品製造業（経営者）	・2～3か月先の受注状況から、変わらないとみている。
	□	一般機械器具製造業（総務担当）	・引き続き工作機械の需要は堅調に推移するとみているが、資材の高騰や納期の長期化が解決するとは考えにくい状況である。
	□	建設業（役員）	・調達資材価格の先行き動向が依然として不透明であり、現状と余り変わらないと考える。
	□	輸送業（役員）	・世界情勢の停滞や、新型コロナウイルス感染症の収束が不透明である。
	□	輸送業（管理会計担当）	・運賃の引上げが思うようには進まず、業績に対するマイナス要因となっている。さらに、海外景気の不安定要素もあり、比較的好調な国際貨物の動向に先行きの不透明感がある。
	□	金融業（融資担当）	・ウクライナ情勢等による原料価格の高騰で各企業とも厳しい状況が続いているが、このまま移動制限がない生活環境で年末商戦を迎えることができれば、現状と変わらない経済活動が期待できる。

	□	金融業（融資担当）	・行動制限のない8月は旅客業や観光業の需要は増加したが、新型コロナウイルスの新規感染者数が高止まりしており持続性に欠けると考える。燃料や原材料価格の高騰が続いており、企業の収益減少の要因となっている。
	□	不動産業（経営者）	・法人客、個人客共に問合せはほとんどない状態で、良い話を聞くことができない。
	□	司法書士	・新幹線の延伸に合わせて駅周辺で再開発が進んでいるが、空き店舗の状態が長く続いている物件も多数あり、駅前活性化については、まだ分からない状態である。
	▲	繊維工業（総括）	・ウクライナ情勢や円安により、原材料価格の高騰が長期化する懸念がある。
	▲	建設業（経営者）	・大量に使用しているガソリンや重油の価格が、ウクライナ情勢や円安の影響で高騰しているが、今後更に高騰すると考える。
	▲	通信業（営業）	・それぞれの自治体施策の動向次第とみている。
	×	—	—
雇用 関連	◎	—	—
(北陸)	○	人材派遣会社（役員）	・求人数が増加し始めており、今後それが減少する雰囲気はみられない。
	○	人材派遣会社（社員）	・求人数が増加することで求職者の多様なニーズにマッチした雇用機会が増加するとみている。雇用が決まることで、世間の様々な出来事に良い変化が起こると考える。
	○	職業安定所（職員）	・新型コロナウイルス感染症が落ち着き、さらに、入出国規制等の新型コロナウイルス感染症の影響による規制が緩和されるとみている。
	○	民間職業紹介機関（経営者）	・延期や中止になっていた行事が徐々に復活し、経済活動も活発になると考える。
	□	求人情報誌制作会社（編集者）	・大きな雇用の話が出てこない。
	□	新聞社〔求人広告〕（営業）	・様々な活動がようやく再開された状況であり、一回りするまでは変わらないとみている。
	□	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・ウクライナ侵攻から半年経過するが戦争状態は続いており、燃料価格の高騰などの影響からはすぐに回復しないと考えるため、当分は現在のような状態が続くとみている。
	□	職業安定所（職員）	・時期的なものであり、例年から変化はないと考える。
	□	職業安定所（職員）	・8月の求人数は前年同月とほぼ同数となっている。
	□	学校〔大学〕（就職担当）	・求人数の状況が変わる要素や気配が見受けられない。
	▲	—	—
	×	—	—